

編集後記

大学における教育研究機能を、地域社会に還元することは、生涯学習時代の到来とともに、これからの大学のあり方として、ますます重要な課題となっております。

聖徳大学生涯学習研究所においても、平成11年度創設以来、地域の生涯学習の推進のために「聖徳大学生涯学習フォーラム」の開催や「課題別研究会」の実施など、聖徳大学の人的資源を活用しつつ生涯学習の研究・実践に努めてまいりました。

また、生涯学習社会貢献センターがスタートして3年、地域社会への貢献のために専門的な研究機関としての機能の充実を期待されております。そして、本紀要は、その一つとして研究継続しているものです。研究内容としては、研究の継続するもの、新しい領域にチャレンジする課題など、広領域にわたっております。これらの課題について、さらに研究が推進され深まることを願って、生涯学習研究所の紀要第5号を、ここに発行することとしました。

平成15年度に、文部科学省の私立大学高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」において、聖徳大学生涯学習研究所が応募した「生涯学習の観点に立った『少子・高齢社会の活性化』に関する総合的な研究」が採択され、その研究の拠点として「生涯学習社会貢献センター」が、設置されました。そして、このセンターが多様な機能を果たすようになるなど、この3年間に本学の生涯学習に関する環境も大きく変わってまいりました。

この研究紀要の発刊は、今後の研究事業においても、ますます、研究誌としての役割を大きくしていくものと思われれます。また、その期待に、応えるように努めたいと思います。

学術フロンティア推進事業の研究とも並行している部分があるために、今回も発表に至らなかった部分もいくつかあります。しかし、前号に続いて、この5号も多様な生涯学習の領域の中から、独創的な研究が発表されております。この内容については、今後もさらに、研究を拡大していくことに努めたいと思います。

学術フロンティア推進事業のまとめとともに、本学における生涯学習の研究成果が、さらに充実した研究に発展させたいものと念願しております。この紀要が、これからの研究に活用されますよう期待します。

なお、ご多忙の中に、査読、及び内容のご指導をいただいた先生方に深く感謝申し上げます。

聖徳大学生涯学習研究所
所長 福留 強